

湿度は鋭感湿度計で測定し溶剤中の水分の定量はカールフィッシャー試薬により行なった。

3. a) 汚れ除去率は溶剤相対湿度が75%以上になると急に増大するが食塩とチオ尿素では除去の様子がやや異なる。b) 一定の相対湿度のもとでは温度が高くなるにつれて汚れ除去速度は大きくなるが汚れ除去量は減少する。c) 食塩の汚れでもチオ尿素の汚れでも溶剤溶液を通過して自発的に汚れは布上の濃度が等しくなるまで汚染布から白布へ移行する。d) 一定温度における汚れの除去速度は溶剤溶液中の水濃度が高くなるにつれて速くなる。e) チオ尿素の溶解度は溶剤溶液中の水の濃度に比例する。

B-87 ドライクリーニングのモデル研究 (第2報) 水溶性汚れの除去

大阪市大 奥山 春彦
○藤井富美子
石田 淑子

1. ドライクリーニングのチャージシステムにおいて今回は、水溶性汚れの除去に関する知見をうるために下述のようなモデル実験を行なった。

2. モデル汚れには、電解質としては塩化ナトリウムを、非電解質としてはチオ尿素を選んだ。前者の定量はFajan法により、後者は紫外部の吸収を利用し光度計によった。試験布は羊毛布と木綿布について行ない、溶剤はパークレン、界面活性剤としては純度100%のエロゾルOTと市販のドライクリーニング用洗剤のソルノン(日本油脂KK)の2種を使用した。洗浄は大型秤量瓶中で行ない、ステンレス針金の枠に汚染布と白布を隔ててとりつけ恒温水槽中で水平方向に振盪した。溶剤相対